

真宗佛光寺派  
大阪教区・  
別院だより

# 大悲

第 49 号

令和5年(2023年)  
4月1日 発行



満開の先にヤンマースタジアム（大阪市東住吉区、長居公園）

昨年十月二十七日の早朝、入院中の母が亡くなりました。この日は午後から大阪別院の報恩講が勤まり、私自身、役目をいただいていたので出勤する必要がありました。ふと心の中で「何でこの日に……」と。しかし、現実には私の都合など考慮してくれません。

思い返すと七年間の認知症生活の中でも、介護が私の意のままにならず、声を荒げたこともたびたびありました。

お釈迦さまは「人生は苦なり」と、生老病死の四苦を説かれました。これは単に「苦しい」ということではなく、人生は「思い通りにならない」ことを教えてくださっている言葉です。

母の死だけでなく、老病を含めた人生をも自分の都合の中におさめようとしていた私。母の人生も私の人生も思い通りにはなりません。そんな生老病死の事実を身を呈してこの私に示してくれた母に頭が下がります。

（隅谷 俊紀）



# と う ひ が ん 到 彼 岸



ことばのもつ力

おさだ ゆずる  
正念寺 長田 譲

「子ども叱るな 我が来た道 年寄り  
笑うな 我が行く道」「いつまでも あ  
ると思うな 親と金 無いと思うな  
運と災難」という古典的なお寺の掲示  
板を目にしたことがありますか。人  
間の本性を突いた言葉にうなずき、救  
われた気分にもなるかも知れません。

## お寺の掲示板

二〇一八年に始まった仏教伝道協会

主催の「輝け！お寺の掲示板大賞」は  
大変興味をひく企画です。ツイッター  
やインスタグラムにお寺の掲示板の写  
真を投稿してもらい、その中から優れ  
た作品を選ぼうというもので、仏教や  
お寺を身近に感じてもらえると期待し  
ています。

第一回の大賞は「おまえも死ぬぞ  
積尊」でした。生あるものが必ず死を  
迎えることは知っていても、自分の死  
はまだまだ先と思っているのです、この  
言葉にドキツとさせられます。

三年前はコロナ禍を反映して、「コロ  
ナよりも 恐いのは 人間だった」が  
大賞を受賞。マスク警察や支援金詐欺  
など、コロナ禍で見せる人間の悪性を  
ついた言葉が選ばれました。

去年はロシアのウクライナへの侵略  
に心痛めた十歳の小学生の「武器を捨  
て 数珠を持つとう」が大賞を取りまし  
た。

## ひかりがある

「のぞみはないが ひかりがある」も  
話題となりました。心理学者の河合隼  
雄さんが紹介した逸話が元です。新幹  
線の切符売り場で「のぞみはありませ  
んか？」と尋ねると、駅員から「のぞ  
みはありませんが、ひかりはあります」  
と言われ「望みはないが、光はある！」  
と反復し感激されたといわれています。

仏教的に解釈すると、私たちが「の  
ぞみ」を失っても、仏さまの「ひかり」  
は私たちを照らしていますと受けとれ  
ます。人間の根本煩惱は「無明」とい  
って、自分の内側も周りもまったく見  
えていないと説かれます。仏さまは私  
たちが抱える無明の闇を、智慧や慈悲  
のひかりとなって常に照らしてくださ  
るのです。





# 如によ是ぜ我が聞もん

## 浄土を念じてこの世を生きる

大阪教区 常光寺 佐々木太ささき一いち師



大阪別院で開催された「さつき会研修会」にて佐々木師より、ご法話を賜りました。

### 「今」を尽くす

親鸞聖人は死後の世界だけを「浄土」とおっしゃっていません。

お経には、浄土は西の方角にあると書かれています。実体的に西の方角に浄土があるのではなく、常日頃、仏の世界をまったく気にも留めない私たちが手を合わせられる手立てとして西の方向が仏の

世界とお示しくださっています。

そんな私たちがいずれは還っていく「浄土」を抛りどころとし「今」を尽くしていくことを、親鸞聖人は大切にされてきました。

### 人の抛りどころ

私たちは生きていくうえで、「今」を満たしてくれるものを抛りどころにしています。

人を頼ったり、お金に頼ったりと、それぞれに自分の欲望を満たしてくれる都合の良

いものを抛りどころとしていますが、どれも状況が変われば、頼りにならないものばかりです。

私たちは、頼りにならないものを頼りとし、今まさに滅んでいくものに取りすがっていることに気付かない危うさを持っています。

そんな危うい私だからこそ阿弥陀如来は浄土から「南無阿弥陀仏」の喚び声と共に昼夜を問わず、救いの手を差し伸べてくださっています。

阿弥陀如来はどこか遠くの

世界にいるのではなく、他の誰でもなく、この私に願いをかけるために「南無阿弥陀仏」として顕れています。自分の都合の良い方ばかりに揺れ動く私を見捨てることなく、浄土を抛りどころとしてくれと喚び続けてくださっています。

「浄土」を死後の世界といたただけではなく、まことの抛りどころとして人生を歩んでいくことが大切であるとおっしゃいました。

### 聴聞して

私はまさに「今さえ良ければそれでいい」という生き方をしているのでしょうか。

「浄土」を抛りどころとすることは「今」を生きる私の足元を明らかにしてくださる教えである聴聞させていただきました。(中井翔隆 記)

# 大阪探検

## ながい 長居公園



長居公園南西入り口



ボウケンノモリ NAGAI



チームラボボタニカル

1934（昭和3）年、野球場や陸上競技場を備えた画期的な総合公園としてスタートし、戦後、市営の競馬場や競輪場として10年余り賑わいを見せます。1964（昭和39）年東京五輪に併せ、競輪場跡地に陸上競技場、その後プール・テニスコート・障害者スポーツセンターなどの施設のほか、市立自然史博物館や長居植物園といった文化施設も次々オープンし、現在の長居公園の基礎ができました。近年は、大阪国際女子マラソンの開催やリーグセレッソ大阪のホームスタジアムとしても有名です。

### 大規模なりニユール

「みんなわくわく明日もわくわく」をコ

ンセプトに長居公園が昨夏新しくなりました。

レストラン「ヤンマーマルシェナガイ」、人気のカフェ「桜珈琲」、日本初出店のパウンドケーキや焼き菓子のテイクアウト専門店といった飲食店が充実しました。食の文化交流館「オッソ・マーケット&キッチン」は地元大阪産の野菜やエコ農産物を取り寄せた「道の駅」のようなたたずまいで、レストランも併設されています。

スポーツ施設では今人気のフットサル場とスケートボードパークもオープンしています。

家族連れには「ボウケンノモリNAGAI」がおすすめです。西日本初の自然を使ったアスレチックは実際の木登り感覚を楽しめます。

植物園内には夜の電飾アート「チームラボボタニカル」が常設され、幻想的な空間を楽しめます。とにかくわくわくできる都会の公園です。

長居公園へは大阪メトロ御堂筋線長居駅、JR阪和線鶴ヶ丘駅・長居駅が最寄りです。

（長田 譲）



# お店を訪ねて

## 株式会社モントトラベル（大阪市西区）

モントトラベルは、釈尊の足跡を訪ねるインド仏教巡拝の旅や中央アジア・中国・朝鮮半島を経て日本に伝わった仏教遺跡や旧跡をお参りするのを主な目的とする、仏跡巡礼の旅の強い味方となってくれる大阪の旅行会社です。今回は代表取締役（まいたけけんりょう）の北嶋顕諒さんにお話を伺いました。

### 若手僧侶で

北嶋さんは、若い頃インドへ新婚旅行に行つて以来、仏跡を巡る旅に魅了されたそうです。そして1986年に、北嶋さんをはじめ、数名の若手僧侶によってモントトラベルは設立されました。

普段なかなか行くことができない各地の仏跡にせつかく足を運んでいただくのだから「一生の思い出に残る旅にしてもらいたい」という思いで、巡拝、観光のみならず、宿泊場所やグルメにもこだわった充実した



ブツダガヤ金剛宝座への団体参拝の風景

しかし今後について、人と人とのつながりが断たれるという経験を通して、触れ合いの大切さをいま一度考え直す機会として旅行の果たす役割は大きいのではないかといいました。

これからも長年にわたり培ってきた経験や人脈を駆使して、仏跡だけにかぎらず、

旅行を提供することに力を入れておられます。そして現地に身を運び、その空気感を十分に味わってほしいとのことでした。

また北嶋さんは真宗大谷派寺院の住職であることから、浄土真宗ゆかりの地への旅行にも精通されています。

### 今後にもむけて

コロナ禍によって旅行業界を取りまく状況も一変してしまいました。

世界各地への旅行を企画し、人々との出会いのご縁を結ぶ、「心ゆさぶる最高の旅を提供していきたい」と抱負を語ってくださいました。

（門川崇志）

■株式会社モントトラベル

〒550-0013

大阪市西区新町1-8-1

行成ビル8階（1階がロビー）

電話 06-6531-1344

Fax 06-6531-1346

# 大悲トピックス

## ■本山佛光寺の慶讃法会について

令和5年5月、本山で慶讃法会きょうざんほふえが厳修されます。慶讃法会とは、宗祖親鸞聖人御誕生850年法要、立教開宗800年法要、聖徳太子1400回忌法要、ならびに第33代真覚門主伝灯奉告法要の4つの法要の総称です。

法要の期間は左記の日程(計9日間)で、それぞれ午前10時と午後2時の2座、合計18座勤まります。

- 第1期 5月12日(金)～14日(日)
- 第2期 5月19日(金)～21日(日)
- 第3期 5月26日(金)～28日(日)

団体参拝の場合は、参詣の法座が各寺院ごとに決まっていますので、事前申し込みの上、お参りください。

また、個人参拝の場合は、ご自由にお参りください。

法要の内容は次の通りで、約2時間を予定しています。

- 法要30分前 鳴鐘
- 法要5分前 喚鐘

## ○法要

(伽陀、表白、四奉請、行譜正信偈、

短念仏、和讃、回向)

○御親教(ご門主おことば)

○複演(法話)

○宗務総長挨拶

○記念口演(玉川奈々福師、

浪曲「親鸞聖人物語」)

## ■『大悲』広告・購読のお願い

大阪教区・別院日より『大悲』(年4回発行)は、「広告」および「定期購読」を収入源として発行させていただいております。

広告は、一区画(55mm×40mm)、掲載一回につき5千円(年間で2万円)です。企業・団体・寺院等の広告を誌面に掲載させていただきます(6・7頁下段参照)。

また、『大悲』の定期購読は、1部につき30円です(送料込・10部単位でお願いいたします)。

## ■懇志御礼

- 長崎県長崎市 正覚寺様
- 滋賀県竜王町 浄満寺様

人工芝施工・内外装工事・サイン・ディスプレイ・テント



**協和産商株式会社**

<https://www.kyowa-ss.co.jp/>  
 本社:大阪市東住吉区今川8-1-14  
 TEL:06-6702-5722 FAX:06-6702-5732

御本山  用達

株式会社 **川勝法衣店**

フリーダイヤル 0120-075-055  
 (〒600-8344) 京都市下京区花屋町通油小路東入  
 電話(075)371-0367(代)  
 FAX(075)371-5088

創業100余年・お墓の専門店

**石留石材株式会社**

土日祝もご相談いただけます(8時~17時)

 **0120-53-5578**  
 ■本社:大阪府藤井寺市津堂2丁目9番29号

**和奏の会 翠笛会**

寺院のイベントに邦楽(尺八・箏)出張演奏いたします。曲目はリクエストできます。事務局:阪南市新町 宝林寺 電話 072-472-1414 <http://homepage2.nifty.com/suiteki/>

浜屋は関西最大級のお仏壇・お仏具・墓石・御寺院お仏具の専門店です。

やすらぎの世界を創る  **浜屋**

通話料無料/浜屋姫路本社フリーダイヤル  
 お問い合わせお申し込み **0120-1616-94**  
 ●受付時間/午前10時~午後6時30分

お墓なんでも相談センター

永遠とわの想いを像おもに還かたちるお手伝いかえ

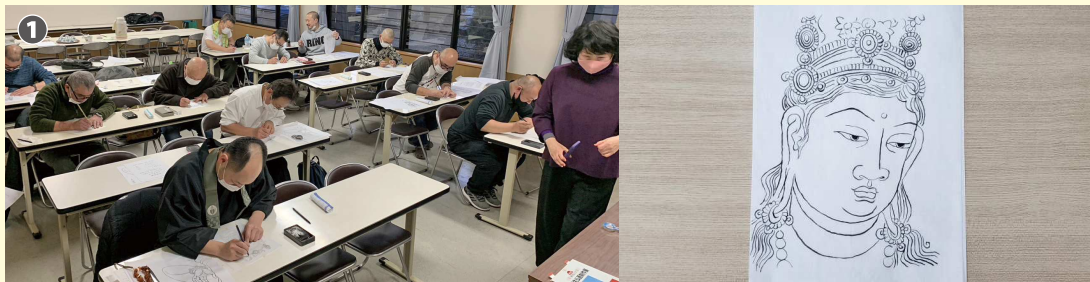
 **ヨシザワ**

株式会社吉澤石材工業所  
 フリーダイヤル **0120-49-1482**



# だいひ 絵日記

- 1月 2日 (月) 大阪別院修正会  
1月12日 (木) 大悲の会編集会議 (総会・第49号読み合わせ)  
2月 2日 (木) 大悲の会編集会議 (第49号読み合わせ)  
2月21日 (火) 大悲の会編集会議 (第49号読み合わせ)  
2月23日 (木) 佛青懇和会研修会 (仏画を学ぶ、講師：飯田 友子 師) ①  
3月10日 (金) 法友会研修会 (慶讃法会について)  
3月15日 (水) さつき会研修会 (声明研修会、講師：寺田 宗隆 師)  
3月18日 (土) 大阪別院彼岸会 (布教：中井 翔隆 師)  
3月21日 (火) 大阪別院彼岸会 (布教：長田 譲 師)  
3月24日 (金) 大阪別院彼岸会 (布教：葦名 彰 師)  
3月24日 (金) 大悲の会編集会議 (第49号発送作業・第50号内容検討)
- (法友会=住職会、さつき会=坊守会、佛青懇和会=青年会)



■**広告募集**(『大悲』発行は広告によって支えられています)  
企業・団体・寺院の広告を誌面に掲載させていただきます。  
1区画(55mm×40mm)、掲載1回につき5,000円です。

■**定期購読**(ご門徒の皆様方にもお渡しく下さい)  
『大悲』の定期購読は、1部につき30円です(送料込)。10部単位でお願いいたします。

表具 **八木米寿堂**

御本尊掛軸修理 絵画、書の表装

〒600-8073

京都市下京区柳馬場通仏光寺上る

tel 075-351-2853 fax 075-352-3258

協 賛

**佛青懇和会**

大阪教区の青年会  
(会長：門川崇志)

協 賛

**さつき会**

大阪教区の坊守会  
(会長：玉出みゆき)

協 賛

**法友会**

大阪教区の住職会  
(会長：寺田宗隆)

# お寺の掲示板

お世話されて始まり  
お世話されて終わっていく  
これが私の人生

振り返れば  
良かったことも  
悪かったことも  
すべてが私の  
生きる力となっていた

## 編集秘話

担当する原稿がないことにホッとしてしまいます。毎回、自分の原稿がなぜ伝わらない？と考え、自分だけが苦しんでいるという思いになります。今回、改めて皆が自分の思いを伝えようと必死になっているのを感じた第49号となりました。次回、50号の節目に向けて気の引き締まる思いです。(寿栄松)

## 編集後記

5月には本山にて慶讃法会が厳修されます(6頁「大悲トピックス」参照)。私は式務衆(法要を円滑に勤める役目の僧侶)として、また布教使として出勤予定です。3週続けて金・土・日が法要の日なので、自坊の法事や月参りの調整が大変ですが、身を引き締めて50年に一度の法要を迎えたいと思っています。(編集長・隅谷)

大阪教区・別院だより『大悲』第49号(春号)  
令和5年(2023年)4月1日発行(発行部数2200部)  
発行：大悲の会  
事務所：佛光寺大阪別院内  
〒558-0011 大阪市住吉区菟田6-11-24 電話06-6691-1362  
郵便振替口座：口座番号「00990-4-305218」加入者名「大悲の会」  
ホームページ(HP) <http://daihi.org/> (ご意見・ご感想はHP内の「お問い合わせフォーム」より)

大悲の会  
長田 譲(会長) 門川 崇志(監事)  
隅谷 俊紀(副会長) 佐々木 太一  
寿栄松 正頭(会計) 葦名 彰  
玉出 宗順(会計) 中井 翔隆